

サプリメント活用の診療モデル

サプリメントを診療に積極的に取り入れるクリニックが歯科、医科問わず増加している。医療機関で扱われているサプリメントには一種の流派があり、その一つにオーソモレキュラー(分子整合医療)と呼ばれるものがある。歯科医院におけるサプリメント活用の可能性について、オーソモレキュラー・デンタル代表で、千葉県開業歯科医の森永宏喜氏の活動展開を中心に探った。

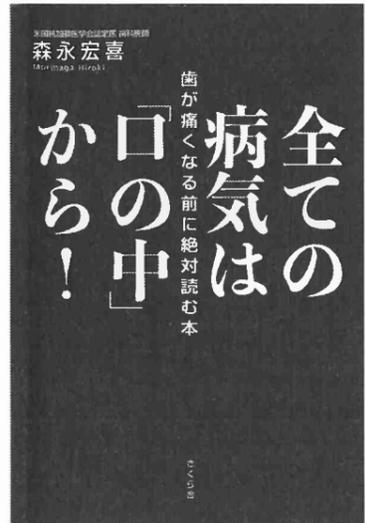
栄養療法が感謝を生み出す

が望ましいとした。

目的の多様化で付加価値を向上

森永氏は、サプリメントを活用した歯科医療、歯科医院経営について、「短期的に多大な貢献をするものではない」としながらも、食事療法を含む栄養療法の効果を実感した人が強い信頼を寄せられるようになる。家族や友人への紹介率が高まる、自費診療への理解が得られやすくなる、サプリメントの販売を通じて患者から感謝されるので従業員の満足が高まるなどの経営効果を挙げている。

一方、全く信頼関係が構築されていない相手には高額なサプリメントの推奨は難しいとして、定期管理型の歯科医療の確立を訴える。そして、「定期管理で通っている患者に対してサプリメントを勧めることで定期受診の目的を多様化させ、高付加価値化させる効果が期待できる」という。その上で、「サプリメントを活用する歯科医療を導入するには栄養についての知識は必須だが、特にオーソモレキュラーは一般的な栄養学とは異なる解釈によって成り立っている。インターネット上にさまざまな異なる解釈が示されているため注意が必要だ。しかし、特段の技術や高額な初期投資を要しないためリスクの少ない新規開拓として期待できる面がある」と話す。



「歯が痛くなる前に絶対読む本—全ての病気は『口の中』から!」(四六判、185ページ、さくら舎、1400円+税)。増刷が決まっている

市販のサプリメントの問題点について森永氏は、「有効成分が十分に含まれていない」と指摘する。オーソモレキュラーは、ノーベル賞を二つ受賞(化学賞、平和賞)しているライナス・ポーリング博士が提唱したもので、そこには「体に必要な栄養素を食事とサプリメントで補給する」として「至適量」の栄養により生体の機能を高め、自然治癒力を向上させる」との考え方があ

より健康目指し 栄養療法を導入

日本では血液検査結果から足りない栄養素を読み解き、至適量のサプリメントを推奨する方法が採用されている。採血が難しい場合には健康診断結果や内科での検査結果をサンプルにすることが多い。

森永氏は9月に「全ての病気は『口の中』から!」を出版し、歯周病の全身疾患の関与や糖質依存の危険性を警告するともに、オーソモレキュラーを紹介し、糖質制限によって全身の健

米国抗加齢医学会認定医で、人口高齢化が進む千葉県銕南町に医院がある森永氏は、歯科領域のアンチエイジング医療の可能性を追求する一方、「健康増進型歯科医院」の看板を掲げ、3D Sや歯周内科といった予防メニューに加え、より健康を目指す人々には糖質制限と積極的なタンパク摂取、そして、オーソモレキュラーに基づいて調製したサプリメントを勧めている。

使用するのは医療機関でのみ購入できる全て天然由来の医療用サプリメント「ドクターズ・セ



第1回オーソモレキュラー・デンタル「栄養療法が歯科臨床を変える—入門編—」(10月30日、東京)。関心が高い分野で、予定の倍以上の参加者が集まった

至適量はどれくらいか

ビタミン・ミネラル	許容上限摂取量	栄養療法での摂取量(至適量)
ビタミンA	1500μg	6000~18000μg
ビタミンE	600mg	400~800mg
ビタミンC	-	0.5~10g
ビタミンD	50μg	上限 250μg
ビタミンB1	-	100~500mg(アルツハイマー 3000mg)
ビタミンB2	-	100~500mg
ナイアシン	30mg	1000~3000mg
ビタミンB6	100mg	100~1000mg(欧米では 3000mg)
パントテン酸	-	300~1000mg
葉酸	1000μg	400~15000μg
ビタミンB12	-	100~1200μg
ビオチン	-	所要量の 600 倍でも副作用なし
カルシウム	2500mg	年齢や妊娠で異なるが 800~1000mg
鉄	40mg	20~100mg
亜鉛	30mg	60~120mg

栗木安弘氏の資料より改変